



海峡に浮かぶ「宝石」

函館スルメイカ漁

【函館】 太陽が西の海に沈み、涼しい風が吹き始める夕暮れ時、津軽海峡に数十の幻想的な輝きが浮かび上がった。キラキラと光るのは、イカ釣り漁船のいさり火。函館のまちと函館山を望む「裏夜景」に秋まで花を添える。

ここ数年、不漁が深刻化している道南スルメイカ漁はここに来て、にわかに盛り上がりを見せている。

函館市によると、市水産物地方卸売市場での8月1~20日の生鮮スルメイカの取扱量は159㌧。10年前の同期の715㌧には及ばないが、記録的不漁だった昨年同期を20%上回った。

漁船は夜通し漁を続け、漁港に翌朝、新鮮なイカを水揚げする。8月下旬には1日50㌧を水揚げする日もあり、関係者は「こんなにいさり火が見られるのは久しぶり。少しでも続いてくれれば」と期待を込める。

函館市街地と函館山の「裏夜景」と、津軽海峡に点在して輝くいさり火。31日午後6時50分ごろ（渡島管内七飯町の横津岳山腹から、

石川泰子撮影）

2017年9月1日夕刊社会面（記事は再編集しています）

①道南スルメイカ漁がここに来て、にわかに盛り上がりを見せている理由を、25文字以内で書きましょう。

②写真、記事の内容を参考にして、「海峡に浮かぶ『宝石』」に代わる見出しを考えましょう。